

医学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	医学研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 ○将来を担う人材を幅広く確保するため、平成27年度大学院入試から学力試験科目（外国語（英語）において、TOEIC のスコア又はTOEFL のスコアを提出することにより、外国語（英語）試験に換算できるように試験方法を増やした。（従来の筆記試験も選択できる） ○医科学専攻、再生医科学専攻（博士前期・博士後期）を合わせた定員充足率については、平成27年度は75%となっており、課題となった。	大学院募集要項（TOEIC, TOEFL 部分抜粋） 【資料1-1】 選抜概況（大学院）医学系研究科 H28 【資料1-2】	
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等 ○平成26年度から博士課程の学生に対する英語教育で基礎から臨床まで、幅広く最新の医学研究に触れることを目的に、大学院講義「ADAMS」を開講し、より多くの関係者（大学院(前期)学生、将来大学院進学を希望する学部学生、MD-PHD コース等）も受講することができるよう整備している。（大学院課程）	大学院シラバス（抜粋） 【資料2】	
基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がった取組 ○平成26年度から大学院教育の国際化を目指した英語による講義、英語による学会発表、議論に習熟させることを目的とする大学院講義「Advanced English Seminar」を開講し、平成27年度の受講者は9名であった。 ○再生医科学専攻（博士前期課程）の学生について修了時に就職・進路先調査を行った結果、専攻分野及び関連分野に修了生14名中13名（社会人学生1名を含む）が就職・進学していることを確認した。	大学院シラバス（抜粋） 【資料3】 学校基本調査（卒業後の状況調査） 【資料4】	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 ○リフレクションペーパーを活用して、授業をわかりやすくするための工夫を共有した。 ○平成27年度は医学部 FD 「日本医療研究開発機構の現状と展望」を開催した。学生及び教職員等58名の参加があり、基礎研究から実用化までの幅広い研究に対して、内閣府を含めた AMED を所管する3省1府一体型の予算管理に対する共通理解・認識について、その理解度を高めた。 H27年度のFD等があれば記載	リフレクション結果 【資料4_【医学】リフレクションペーパー】 FD資料 【資料5】	



医学研究科自己点検評価書

基準 4 学生の受入

入学者選抜の改善に繋がった取組

- ・ 学力試験科目（外国語（英語））にTOEIC又はTOEFLを導入

課題

定員充足率の確保

基準 6 学習成果

学習成果の向上に繋がった取組

- ・ 修士課程の学生を対象に「Advanced English Seminar」を開講

基準 5

教育内容及び方法

教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等

- ・ 博士課程の学生を対象に大学院講義「ADAMS」を開講

基準 8 教育の内部質保証システム

教育の質の改善に繋がる取組

- ・ リフレクションペーパーを活用
- ・ FDを開催